

つり環境ビジョンコンセプトに基づく
LOVE BLUE
事業報告書
2022年度



LOVE
BLUE

地球の未来を

つり環境ビジョン

LOVE BLUE 事務局

～活動理念～

私たちの考える「LOVE BLUE ～地球の未来を～」とは、持続可能な釣り環境を構築するために、釣りにかかわるすべての人々が、共通の想いをもって発信する未来に向けた理念です。海や川に囲まれ、水に恵まれた国、日本。日本の釣り文化は、世界的に見ても群を抜いて高度であり、とても魅力的です。だからこそ私たちは、「釣りで自然を汚さない」から「釣りが自然を再生させる一助になる」ように環境への意識をさらに高め、世界に誇る「水辺の環境保全」を志向する社会貢献事業の実施を目指してまいります。

「LOVE BLUE ～地球の未来を～」をスローガンに、まずは、「環境保全」と「資源回復」を両軸に、「水辺をキレイに」「サカナを増やそう」「フィールドを広げよう」を3つの優先事項とし活動してまいります。

I



- I 参加企業一覧
- II LOVE BLUE 事業の取り組み
- III 2022 年度 LOVE BLUE TOPICS
- IV 水中清掃
- V 陸上清掃 LOVE BLUE 助成
- VI 放流
- VII 釣り場拡大 (ワカサギ)
- VIII LOVE BLUE 広報
- IX 釣りマナー広報
- X 国・自治体等とのつながり
- XI 水中清掃への想い

未来へ残したい美しい地球の つり環境ビジョンコンセプトに基づく LOVE BLUE 事業

ア
 ING co.,
 (株)アイビック
 (有)アイビーライン
 アキレス(株)
 (有)アクティブ
 アサヒレジャー(株)
 アチック
 (株)ア・ネットコトブキヤ
 (株)アピア
 (株)アムズデザイン
 (有)アリゲーター技研
 (株)アングラーズ
 (有)アングル
 (株)ARTISTIC&CO.BEAUSPORTS
 (株)イシグロ
 (有)イシナダ釣工業
 (株)issei
 INFINITE SEEDS MAKERS(株)
 ヴァンフック(株)
 (株)ウィング
 植田漁具(株)
 (株)ウォーターハウス
 (有)ウォーターランド
 (株)魚矢
 (株)宇崎日新
 ウチダトレーディング・モリックスジャパン
 WooDream
 (株)エイチ・エー・エル
 (株)エイテック
 (株)E S T A T E
 (株)NTマイクロシステムズ
 NPO法人ジャパングームフィッシュ協会
 (株)エバーグリーンインターナショナル
 エフ・ケイ
 (株)M-ONE
 O S G S
 (有)オー・エス・ピー
 オーシャンフリークス(株)
 (株)オーナーぱり
 (株)オーパデザイン
 (株)オオモリ
 (株)OKUMAN
 (有)オジーズ
 (株)小野由
 (株)オフィスアクセル

(有)オフィス・ユーカリ
 (株)オリムピック
 (株)オンスタックル
カ
 (株)鶴祥
 景山産業(株)
 (株)カズマーク
 (株)カツイチ
 (有)加藤精工
 カハラジャパン(株)
 (有)カビィ
 (株)がまかつ
 (有)カラーズインターナショナル
 (株)川せみ針
 (有)ガンクラフト
 (有)関門工業
 (株)キサカ
 (株)キサクラ
 (株)K I L L E R H E A T
 金鯰
 (株)キーストン
 クオリティライフ
 (株)クリーブラッツ
 (株)Grayhound
 クレハ合織(株)
 (株)クロノコーポレーション
 グローブライド(株)
 (株)KIOB
 (株)ケイテック
 (株)ゲインコーポレーション
 (株)ケーター関東
 ゲーリーインターナショナル(株)
 ケンインターナショナル(株)
 (株)剛樹
 (株)ゴーセン
 (一社)KONI
 (株)コヒナタ
サ
 (有)財津釣具
 (有)サウスウィンド
 栄通商(株)
 櫻井釣漁具(株)
 (株)ささめ針
 (株)ザップ
 (有)サニー商事
 サンヨーナイロン(株)

(株)サンライン
 (株)3 4
 THE OWL GENE LURE'S
 (株)ジークラック
 (株)シーフロアコントロール
 (株)シマノ
 (株)清水
 (株)下田漁具
 (株)ジャクソン
 (株)ジャッカル
 (株)ジャンプライズ
 (株)上州屋
 skillful
 (株)スズミエンタープライズ
 スタジオディーピーアイ(株)
 スターンキーパー(株)
 スティールハント
 (株)スナガ
 (株)スーパー・ビー
 (株)スポーツライフプラネッツ
 (株)スミス
 征興産業(株)
 (株)清光商店
 (株)ゼニス
 (株)双進
タ
 第一精工(株)
 ダイトウブク(株)
 大同(株)
 大同石油(株)
 太陽産業(株)
 (株)ダイレイ
 タカ産業(株)
 高階救命器具(株)
 (株)タカタ
 (株)タカミヤ
 (株)タックルハウス
 (株)達人
 谷山商事(株)
 (株)タネ・マキ
 (株)ダミキジャパン
 (株)ダン
 痴虫
 中央漁具(株)
 (株)津田商会
 (株)ツネミ

ために今私たちは行動します

264社・団体参加(2022年3月31日現在 50音順)

- (株)釣研
(株)釣りビジョン
つりー(株)
(株)DRT
(株)ティムコ
T. H. タックル
D-CLAW
(株)DSTYLE
(株)ディーパース・ファクトリー
(株)テクノス
(株)デプス
(株)デュオ
(株)天龍
(株)トアルソン
(株)トゥームストーン
東邦産業(株)
東レ・モノフィラメント(株)
(有)トオヤ
(株)土肥富
(株)TRYALL
DRANCKRAZY(株)
DreemUp
- ナ**
(株)内外出版社
(株)ナカジマ
ニッコー化成(株)
(株)NOIKE
- ハ**
(株)ハイテックポート
ハイドアップ(有)
(株)バスディジャパン
バスデイ(株)
(株)林釣漁具製作所
(株)ハヤブサ
はり秀(株)
(株)ハリミツ
(有)HMKL
HAND MADE LURE HIRO
(株)パームス
(株)バイファール
(株)バリバス
(株)ビーエムオージャパン
ビジュアライズイメージ(株)
ピュア・フィッシング・ジャパン(株)
兵庫通商(株)
(有)ヒロカコーポレーション
- フィッシュ・アンド・ハート(株)
Fishman(株)アレア
FIELD BACK
プエブロ(株)
(株)フォレスト
FOLLOW
富士工業(株)
富士灯器(株)
(株)フジノライン
(株)フジワラ
(株)藤原辰次商店
(株)ブリーデン
フルシロプロダクトデザイン
ブルーブルー(株)
(株)ブレイズアイ
プロズワン
(株)プロックス
Professor Fishing Service
ベイトプレス
BeveL
(株)ベルモント
(株)BASE
(株)北摂マリン
Bottomup(株)
BOREAS
(株)ボンバダアグア
- マ**
(株)マガジン・マガジン
マルキユー(株)
丸米商事(株)
(株)マルシン漁具
MARUTE
(株)まるふじ
mibro
(株)ミヤマエ
(株)ムカイフィッシング
(株)名光通信社
明邦化学工業(株)
(有)メガテック
メガバス(株)
メジャークラフト(株)
(株)目探
moriken speed bite
(株)もりげん
(有)モルテックス フラー事業部
- ヤ**
(株)ヤマイ
山田電器工業(株)
山豊テグス(株)
山本光学(株)
(株)ヤマリア
(株)ヤリエ
ユニチカ(株)
(株)ヨコハマ
(有)よつあみ
- ラ**
(株)ラインシステム
(有)ラガチャイナ
落花生
(株)ラッキークラフト
Rattytwister
ラパラ・ジャパン(株)
REALS
(株)リガーレ
(株)リコーサーバンス
(株)リチャーズ
リップラップ
リトルジャック(株)
(有)リトルプレゼンツ
(株)リプレイ
(株)リングス
lure angle HAMA
ルアーショップ アンドウ
(株)ルミカ
+Rooms'
RAID JAPAN(株)
(株)レイン
LEGAME(レゲーム)
レジットデザイン(株)
LESS is MORE
(有)ロデオクラフト
- ワ**
WILDFINS
(株)脇漁具製作所
(株)和田製作所
(株)ワトスファクトリー
(株)ワールドスポーツ



2013年4月 事業開始「環境・美化マーク」



2016年4月 千葉県南房総市 石井裕 市長を表敬訪問
左：石井裕 市長 右：小島忠雄 LOVE BLUE 委員長



2015年4月 地球環境基金企業協働プロジェクト第1号
水辺の環境保全を担うNPO等助成開始

地球環境基金



2016年5月 G7伊勢志摩サミットと連携



2015年6月 エコライフ・フェア2015 望月義夫 環境大臣 ブース来訪
中央：望月義夫 環境大臣左：当工業会 大村一仁 副会長 右：当工業会 小島忠雄 LOVE BLUE 委員長



2016年5月
三重県鳥羽市
木田久主一 市長を表敬訪問

左：三重県鳥羽市
木田久主一 市長
右：当工業会 島野容三 会長



2015年6月
環境大臣より感謝状を頂く
右：環境省 小林正明 事務次官
左：小島忠雄
LOVE BLUE 委員長



2016年6月 エコライフ・フェア2016 丸川珠代 環境大臣 ブース来訪
中央：丸川珠代 環境大臣 左：大村一仁 副会長 右：小島忠雄 LOVE BLUE 委員長



2015年7月 茨城県酒沼のラムサール条約登録に貢献



2016年7月 第36回全国豊かな海づくり大会～やまがた～と連携



2015年9月 徳島県の小学校で環境教育授業を実施



2017年1月 環境省 小林正明 事務次官を表敬訪問
中央：小林正明 事務次官 左から松下和夫 京都大学名誉教授、大村一仁 副会長、島野容三 会長、小島忠雄 LOVE BLUE 委員長



2017年6月
エコライフ・フェア2017
関芳弘 環境大臣
ブース来訪

左：関芳弘
環境副大臣
右：小島忠雄
LOVE BLUE 委員長



2019年6月 原田義昭 環境大臣を表敬訪問
左から：大村一仁 副会長、松下和夫 理事、原田義昭 環境大臣、島野容三 会長、小島忠雄 顧問、小松智昭 専務理事、柿沼清英 理事



2017年9月 第38回全国豊かな海づくり大会～高知家大会～と連携



2021年3月 鹿児島県 塩田康一 知事を表敬訪問
中央：塩田康一 鹿児島県知事
中央右：前田かおる（公財）かごしま豊かな海づくり協会 事務局長
中央左：小島忠雄 LOVE BLUE 委員長
最右：小松智昭 専務理事 最左：柿沼清英 理事



2017年9月 徳島県の小学校で環境教育授業を実施



2021年3月（公財）かごしま豊かな海づくり協会理事会
右から：（公財）かごしま豊かな海づくり協会 五田嘉博 理事長、
鹿児島県漁業協同組合連合会 野村義也 会長、
小島忠雄 LOVE BLUE 委員長、柿沼清英 理事



2018年9月 茨城県 大井川和彦 知事を表敬訪問
右から：小島忠雄 LOVE BLUE 委員長、大村一仁 副会長、
大井川和彦 茨城県知事、島野容三 会長、加藤誠司 副会長、
柿沼清英 理事



2021年3月 鹿児島県 中村かおり 副知事へ表敬訪問
中央左：中村かおり 鹿児島県副知事
最左：前田かおる（公財）かごしま豊かな海づくり協会 事務局長
中央右：小島忠雄 LOVE BLUE 委員長
最右：柿沼清英 理事



2018年10月「第17回世界湖沼会議いばらき霞ヶ浦2018」にて、
小島忠雄 LOVE BLUE 委員長が講演。



2021年12月 広尾町 村瀬優 町長へ表敬訪問
左から：村瀬優 広尾町町長、小島忠雄 LOVE BLUE 委員長



2018年12月 山形県鶴岡市・三瀬保育園にて、クロダイ放流体験を通じた劇「LOVE BLUE～クロダイのこども達の冒険」を実施。

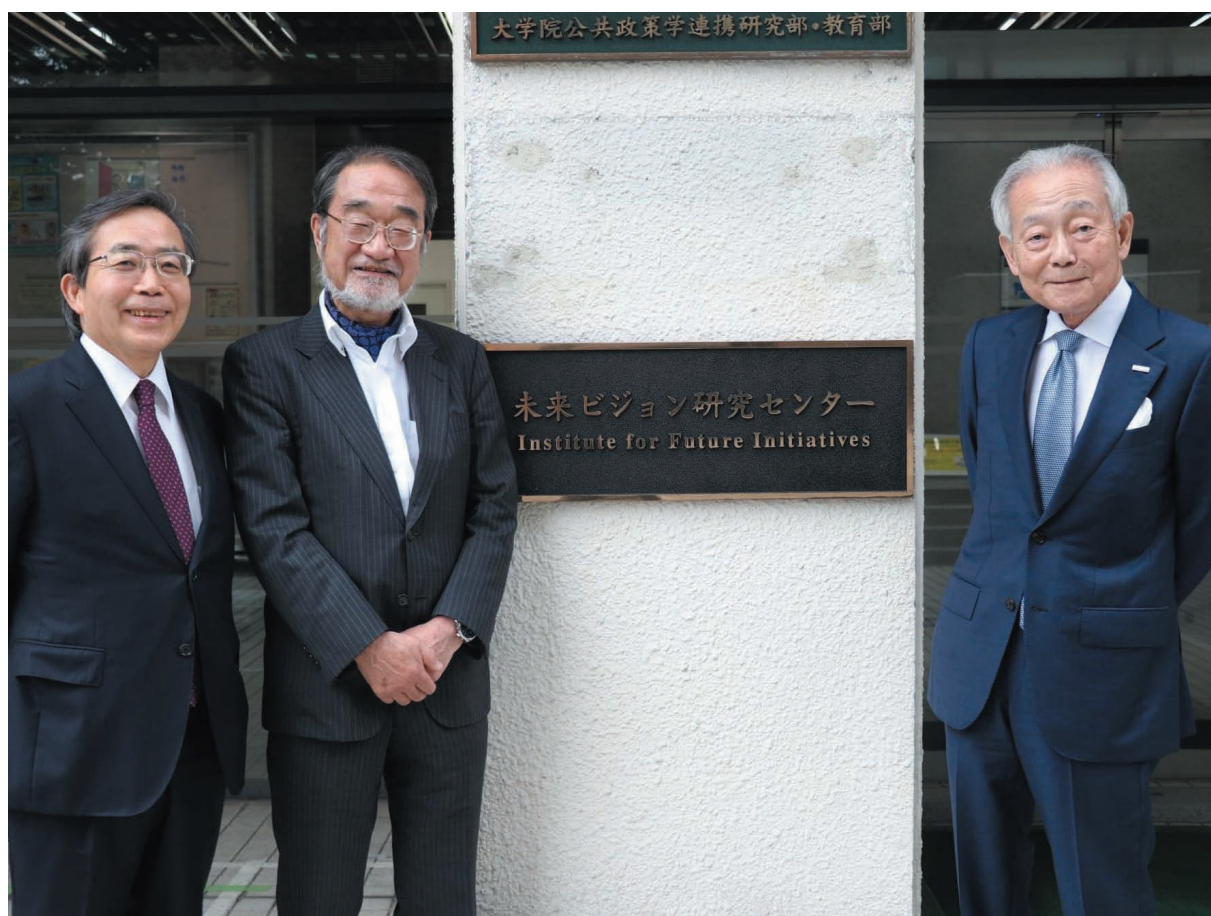


2022年5月 環境系トップリーダーとの対談
左から、京都大学 松下和夫 名誉教授、東京大学 住明正 名誉教授、
一般社団法人日本釣用品工業会 島野容三 会長

2022年度 LOVE BLUE TOPICS ※役職は当時のもの

環境系トップリーダーとの対談

世界環境デーを前にした2022年5月31日、東京大学にて、『環境保全活動に取り組む、釣り業界団体のトップ (一社) 日本釣用品工業会 島野容三 会長』と『気候変動の権威 東京大学 住明正 名誉教授』と『環境政策の第一人者 京都大学 松下和夫 名誉教授』が一堂に会し、『地球・ひとのために私たちが出来ること』とのテーマで対談が行われた。



左から、京都大学 松下和夫 名誉教授、東京大学 住明正 名誉教授、一般社団法人日本釣用品工業会 島野容三 会長

この日の対談を通して、島野容三 会長から「私たちは釣りを通じて、海や川などの豊かな自然環境から恩恵を受ける中で、釣りに関わる人々とともに世の中に役立つことをさせて頂こうと、水辺の環境保全活動などを社会貢献事業として取り組んでいます。」と対談が始まり、「釣りは人間に環境の大切さというものを教えてくれる本当に良い機会です。」と釣りへの想いも語った。



東京大学 住明正 名誉教授

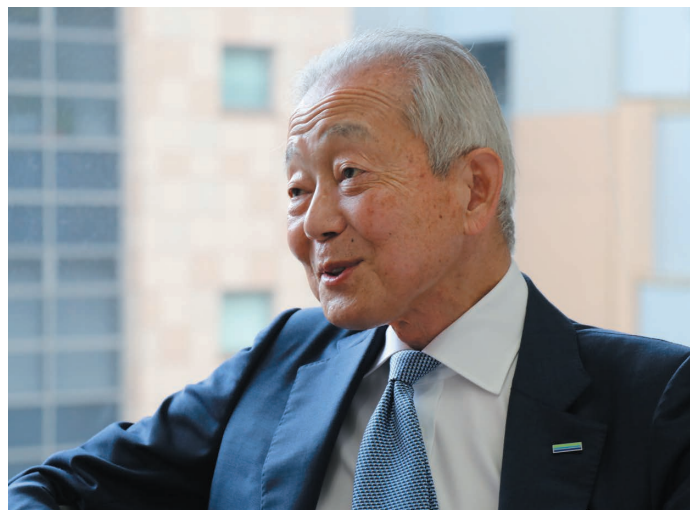


京都大学 松下和夫 名誉教授

次いで、「私どもが LOVE BLUE 事業を始めたのも、そもそも根底には、持続できる社会、持続できる環境へ取り組んで行こうということからです。この自然環境をどうやって守っていくのか。そして多くの価値のあるこの釣りというものを世界中の皆様に未来永劫楽しんでいただきたい。」そのためにも、政府や税金に頼るのではなく「自分たちで財源を持たなければならないと考えました。」と。さらに、「社会貢献として取り組んでいる LOVE BLUE 事業も収益が上がるというものではありません。そもそもこういう事業は求めるものではないと思っています。いかに自分たちが貢献できたかということにやりがいを感じるということに持っていく、そういう事業・理念なのだということをご理解いただくのが、私の仕事であり、非常に大事なことだと思っています。」と事業の根幹にも言及された。

最後に「身の丈に応じた貢献をそれぞれがそれぞれの立場で取り組む、その大切な考え方を、影響力のおありになる住先生や松下先生からの発信をお願いしながら定着させて行くことが未来に、未来の人たちに、この地球を託していくための、自分たちの責務だと思っています。」と締め括った。

対談の全文は LOVE BLUE 公式 HP をご覧ください。



一般社団法人日本釣用品工業会 島野容三 会長

水中清掃

私たち釣り人は世界中の水辺から恩恵を授かっている社会の一員です。その豊かな水辺を守る活動の柱としての取組みが、プロダイバーによる水中クリーンアップ活動です。LOVE BLUE では全国を7ブロックに分け、公平性や透明性等を踏まえ、都道府県や市町村、港湾管理者、漁業者等の皆様からご要望を頂きながら実施しています。

プロダイバーによる水中クリーンアップ活動は2013年度事業開始より、10年間実施しています。

2022年度プロダイバー 水中清掃地域マップ



2022年度 1道 23県 178日 44箇所実施

(累計 1道 1府 34県 1,356日 151箇所実施)

水中清掃



秋田県漁業協同組合 代表理事組合長 加賀谷弘さん

港内の清掃っていうことで、漁業者自ら自分で使う身なのに、水中の清掃は中々出来ないです。陸上から見た時に、自然に流れたりした空き缶などがある時があり、何とか出来ればいいなと思っていました。その時に今回の水中の清掃の話が来て、是非と思いました。そして、この清掃活動を実施してもらう際には、皆さんにこういう風にやっていますよと伝え、漁協としても、まず今回はお世話になるので、出来る範囲で応援したいと思います。

今年だけでなく、是非、秋田県下で引き続きお願いしたいです。私はもう感動しました。あと、この事業をPR でやっていない事が、逆に私は嬉しくて。普通であれば、利益の発生する企業とかであれば、私達こういうことやってるので取り上げて下さいって言うのが普通なんだけど、今回の場合はなんていうか本当にね、漁業者の為に考えてくれると思って、私は本当に感動してます。この活動はもうちょっと広めたいですよね。

こういった活動がありますが、それでも、やっぱり、ハタハタの時期になると、誰かが釣ると、ネットとか、今の時代スマホで拡散するんですね。その時に、釣針とかが、漁具に引っかかるわけです。それがかなりあると聞いています。漁港でも網が入っているんですよ。岸壁すれすれに入れた網とかに漁具に針が引っかかることがあります。土日になると、だいぶ、漁船が入ってくると竿を上げてマナーは良いですが、どうしてもハタハタになると、人より釣らないといけないとマナーどころじゃなくなっている傾向があります。組合員の車の駐車場所が無かったりすることもあります。マナーの良い釣り人もいれば、違反する人もいます。ただ、この水中清掃はとっても良い活動だと思いますので、改めて、引き続きお願いしたいと思っています。



水中清掃



埼玉県南部漁業協同組合 副組合長
島田光一さん

南部漁業協同組合管轄の場所は荒川の船溜まりから始まり、川田谷沼が2カ所目になります。漁協としても陸上の清掃など、いろいろな活動をしておりますが、水中の中までは難しい部分がありました。やはり、水中となると、それなりのコストもかかるし、人手の問題などです。なので、漁協として、水中の清掃は大変ありがたいお話です。理事会などにも報告をさせていただきました。

この川田谷沼は過去に大きい台風が来た時にいろいろなものが流されたと聞きました。なので、水中の中にはいろいろなものがあると思います。また、ここには釣りをしに来る方もこられるので、安心・安全な場所にしていきたいと考えています。その為に漁協で出来ることは続けて行くつもりです。あとは、近くにサーキット場があるので、車の出入りも多い場所になります。なので、駐車の関係でも迷惑にならないように努めていたり、看板を出したりしています。今回の水中清掃の実施の際にも、「実施中」という看板を出させていただきました。

見慣れない人たちが、凄い装備で潜っていると、近隣の方々に心配されてしまったり、釣りに来ている方に迷惑をかけてはいけないと思ったからです。ただ、実施の際に、作業の方々の対応が明るく素晴らしかったので、初日以降は何も心配する事はありませんでした。これからも、引続き、水中の清掃を実施していただければと思います。まだまだ、実施出来る場所はありますので、宜しくお願いします。



陸上清掃 LOVE BLUE 助成

LOVE BLUE 助成とは

地球環境基金が行う支援活動の中で、特定の活動に対して支援したい寄付者の「想い」を反映させたプログラムです。LOVE BLUE 助成は、(一社)日本釣用品工業会より LOVE BLUE 事業の一環として、寄付した資金を基に、清掃活動など、水辺の環境を構築する為の助成金となっております。

LOVE BLUE助成団体

2022年度

福岡県	宗像フェスCSR推進実行委員会
東京都	全国川ごみネットワーク
兵庫県	NPO神戸海さくら
神奈川県	(一社)スピリット・オブ・セイラーズ
東京都	DEXTE-K
神奈川県	アイサーチ・ジャパン
大阪府	NPO大阪海さくら
大阪府	(公社)大阪自然環境保全協会
鹿児島県	NPOくすの木自然館
北海道	砂川レイクサイドの回
新潟県	NPO新潟海洋開発

2015年度

香川県	NPOアーキペラゴ
群馬県	NPO浅間・吾妻エコツアーリズム協会
東京都	NPO荒川クリーンエイド・フォーラム
岐阜県	NPOいびがわミズみずエコステーション
香川県	海守さめき会
東京都	(一社)JEAN
鹿児島県	誇れるふるさとネットワーク
神奈川県	NPOワールドオーシャンズデイ

2016年度

島根県	NPO アンダンテ 21
岐阜県	NPO いびがわミズみずエコステーション
岡山県	NPO グリーンパートナーおかやま
山形県	NPO 公益のふるさと創り鶴岡
広島県	NPO 自然環境ネットワークSAREN
石川県	NPO 能登半島おらっちゃんの里山里海
鹿児島県	誇れるふるさとネットワーク
神奈川県	NPO ワールドオーシャンズデイ

2017年度

島根県	NPO アンダンテ 21
岐阜県	NPO いびがわミズみずエコステーション
岡山県	NPO グリーンパートナーおかやま
山形県	NPO 公益のふるさと創り鶴岡
石川県	NPO 能登半島おらっちゃんの里山里海
福岡県	(一社)ふくおかFUN
山梨県	NPO 未来の荒川をつくる会
長崎県	やったろうde高島

2022年度1都1道1府5県11団体助成 (累計1都1道1府21県34団体助成)

2018年度

沖縄県	美ら海振興会
島根県	NPO アンダンテ21
鹿児島県	くすの木自然館
岡山県	NPO グリーンパートナーおかやま
山形県	NPO 公益のふるさと創り鶴岡
兵庫県	神戸海さくら
熊本県	次世代のためにがんばる会
東京都	全国川ごみネットワーク
石川県	NPO 能登半島おらっちゃんの里山里海
福岡県	(一社)ふくおかFUN
山梨県	NPO 未来の荒川をつくる会
長崎県	やったろうde高島

2019年度

東京都	全国川ごみネットワーク
兵庫県	NPO神戸海さくら
福岡県	(一社)ふくおかFUN
山梨県	NPO未来の荒川をつくる会
熊本県	次世代のためにがんばる会
鹿児島県	NPOくすの木自然館
長崎県	やったろうde高島
福岡県	宗像フェスCSR推進実行委員会
埼玉県	NPOジョイライフさやま
山形県	NPOパートナーシップオフィス
宮城県	(公財)みやぎ・環境とくらし・ネットワーク
石川県	NPO能登半島おらっちゃんの里山里海

2020年度

東京都	全国川ごみネットワーク
兵庫県	NPO神戸海さくら
鹿児島県	NPOくすの木自然館
福岡県	宗像フェスCSR推進実行委員会
埼玉県	NPOジョイライフさやま
山形県	NPOパートナーシップオフィス
宮城県	(公財)みやぎ・環境とくらし・ネットワーク
石川県	NPO能登半島おらっちゃんの里山里海
東京都	DEXTE-K
香川県	NPOアーキペラゴ
神奈川県	一般社団法人スピリット・オブ・セイラーズ

2021年度

東京都	全国川ごみネットワーク
兵庫県	NPO神戸海さくら
兵庫県	アイサーチ・ジャパン
福岡県	宗像フェスCSR推進実行委員会
埼玉県	NPOジョイライフさやま
石川県	NPO能登半島おらっちゃんの里山里海
東京都	DEXTE-K
神奈川県	(一社)スピリット・オブ・セイラーズ
大阪府	大阪海さくら
大阪府	大阪自然環境協会
高知県	夢創房室戸迎鯨の杜

陸上清掃 LOVE BLUE 助成



代表理事 山本海
スタッフ 田畑絵里

スピリット・オブ・セイラーズ

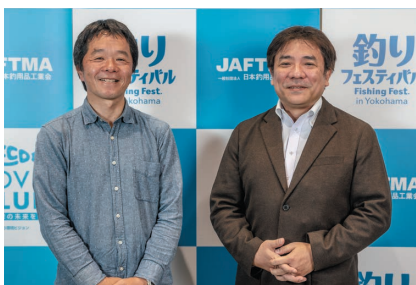
LOVE BLUE 助成を通じて、活動を広げ、他の団体と交流をすることや、活動の幅を広げる事が出来ました。LOVE BLUE 助成を受けていた3年間で、自分たちだけでは出来ない多くのことを実施する事が出来て、大変感謝しております。引き続き、豊かな水辺を守る為に活動していきます。LOVE BLUE 助成を受けている団体、受けたことのある団体は皆さん同じ思いを持っていると思います。



事務局長 石塚誉子
スタッフ 石川恵

アイサーチ・ジャパン

3年間 LOVE BLUE 助成を受けることで、活動を広げる事が出来ました。コロナ禍で思う様な活動が出来ない事もありましたが、水辺をキレイにしたいという思いで、試行錯誤してきました。水辺をキレイにしている団体も皆さん思いは同じだと思いますので、LOVE BLUE 助成事業は続けて行って、様々な団体へ支援をお願いします。



副会長 田中広樹
スタッフ 野口竜夫

大阪自然環境保全協会

LOVE BLUE 助成を支えて下さっている釣り人の皆様には感謝しかございません。コロナで世の中が暗い時期でも、活動する時には思いがある方が集まって下さいました。

そんな思いのある方たちを裏切ってはいけないという思いで活動しました。これからは私たちの活動で明るい未来を作れるようにしていければと思っています。



スタッフ 伊藤浩子

全国川ごみネットワーク

海ごみは多く取り上げられていますが、海まで流れていくのに川を通り、その川にもごみが落ちています。多くの方に身近に感じて頂くような活動をし、自分がやらないといけないという意識に変化すれば、川はもちろん海もきれいになってくると思います。LOVE BLUE 助成を通じて多くの事を得ることが出来ました。釣り人の皆様、本当にありがとうございます。

陸上清掃 LOVE BLUE 助成

全国 全国川ごみネットワーク

プラスチックごみ削減普及啓発プロジェクト



プラスチックごみ削減を伝えるパネル、ごみ実物ボード、説明ボード、冊子などを作成し、貸出および、ごみ拾い会場などで活用して広く啓発を行いました。また小中学校に出前授業として、川や海に繋がるごみ削減についても伝えました。

兵庫県 NPO 神戸海さくら

須磨の自然と歴史を学び海洋環境を守り育てる活動



毎月定例のビーチクリーン17回と、海水浴場開催期間中の20回、計37回のビーチクリーンを行い、延べ2963人が参加しました。専門家による環境セミナーも3回開催。また、神戸市内の公立小学校、公立中学校とも一緒に須磨海岸清掃を実施しました。

兵庫県、大阪府 アイサーチ・ジャパン

西日本におけるイルカ・クジラに関する教育・啓発活動の充実と普及



イルカ・クジラの生態と海の環境を学ぶワークショップや大人も子どももひとりひとりが地球環境を考える力を身に付ける場にもなるクリーンアップ、イルカのくらす海を丸ごと体験するツアーや研究者による講演会など多角的に深く学ぶ機会を設けました。

鹿児島県 NPO くすの木自然館

鹿児島湾奥地域の湿地帯における保全・清掃活動



鹿児島湾奥で底生生物と野鳥の調査を行い、湾奥湿地周辺の環境の指標となる基礎的な生物データを収集し、多くの野鳥や底生生物種の生息を確認出来た。地域住民と干潟の生き物観察とごみ拾いイベントを含めた啓発講座を実施しました。

福岡県 宗像フェス CSR 推進実行委員会

日韓海洋プラスチックリサイクル環境学習事業



日韓の学生で宗像フェス会場内のエコステーションを運営。学生と市民にて日韓同時に海岸清掃し、日韓の学生にマイクロプラスチックが環境に与える影響などの講義を開催。宗像フェス参加者の海岸清掃と環境講義を開催しました。

大阪府 NPO 大阪海さくら

大阪湾でアマモを育て海の生物を知ろう、淀川ごみ拾い



毎月1～2回のごみ拾いの際には、各活動地に於いて企業・学校・行政・他団体と、工夫を凝らしたごみ拾いや、プラごみ学習や展示し、また、アマモの育苗と苗の移植を実施する事ができ、多くの方に参加頂き、生物調査もしました。

陸上清掃 LOVE BLUE 助成

東京都 DEXTE-K

ラムサール条約に登録された葛西干潟における漂着ごみ収集を中心とした保全活動



2022年度はビーチクリーンに延べ約400名の方々に参加していただきました。「東京里海パスポート」制度の運営をスタートさせることができ、リピート参加者の増加に寄与でき助かりました。今後もリピート参加者は増えていく手応えです。

全国 (一社)スピリット・オブ・セイラーズ

Ocean College ～海を学び、地球を感じる体験～



「#リモートゴミ拾い」は誰でも参加でき、それぞれの場所でごみを拾って、ごみの量や写真をアップ・集計し、成果をSNSでシェアしました。また帆とオールのみで船を動かし、船で海上のごみを拾いに行き、自然環境について考察する時間を作りました。

福岡県 くらげれんごう

九州北部沿岸地域における環境教育を中心とした海の保全活動



小学生を対象に、楽しみながら海の環境問題をじぶんごとに捉えることを目的として、小学校での環境学習・ビーチクリーン・海で拾ったプラスチックでのキーホルダー作りを行い、児童による地域住民への配布と啓発を行いました。

北海道 砂川レイクサイドの会

砂川オアシスパークゴミゼロ・CO2ゼロ作戦



例年に比べ雪解けが早く、大量のプラごみ・不燃ごみが漂着していたオアシスパークのごみ拾い作業を実施しました。回収したごみ4t分を処理する際に発生するCO2に対しては、J-クレジットを活用したカーボンオフセットを実施します。

新潟県 NPO 新潟海洋開発

「持続可能な市民憩いの海岸」の実現にむけた新潟海岸のクリーンアップ活動と環境モニタリング調査



新潟市日和浜海岸にて海岸と海中のクリーンアップ作戦と環境モニタリング、憩いの場としての海岸利用アンケートや水上バイク試乗体験やビーチテニス体験教室を開催しました。新型コロナウイルス感染拡大により規模縮小となりましたが市民51名に参加いただきました。

兵庫県、大阪府、和歌山県、福井県 (公社)大阪自然環境保全協会

遠征観察会やごみ拾いの実施による『海洋プラスチックごみをなくす社会を目指した意識改革』活動



淡路島にある無人島「成ヶ島」に渡り、大阪湾の漂着ごみの回収と、希少生物のすむ干潟の生き物観察を同時に行うことにより、危機感をあおるよりも自然の尊さをモチベーションとしてごみを減らす生活にシフトするように促すことが出来ました。

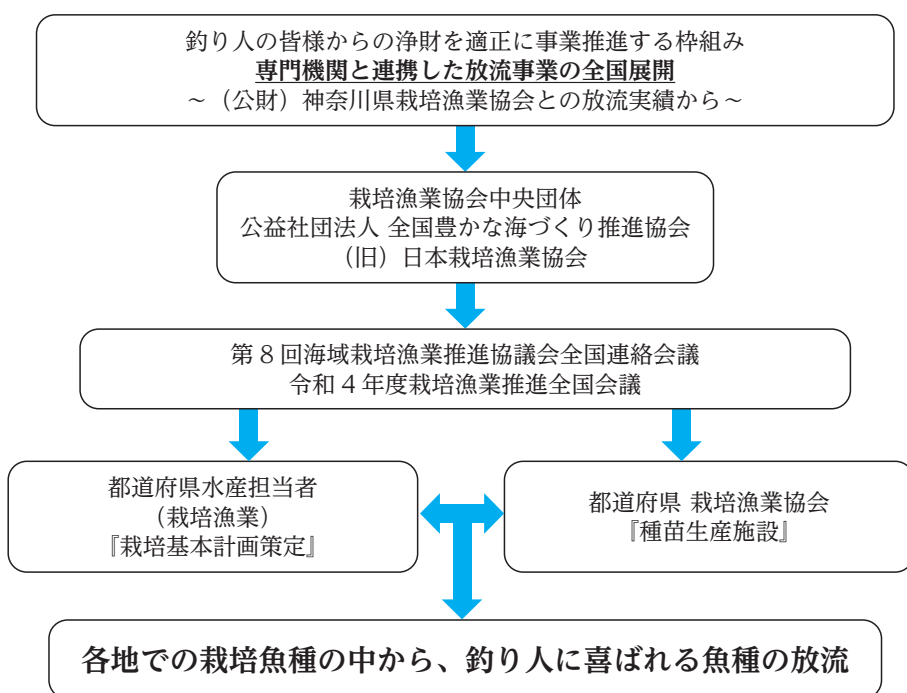
放流

2013年4月の事業開始より2017年度まで、専門機関と連携した放流事業として、公益財団法人神奈川県栽培漁業協会へ事業委託し、釣り人の皆様に喜んで頂けるよう、毎年マダイ稚魚を神奈川県側の東京湾へ20万尾（5年間累計100万尾）放流すると共に、漁獲・釣獲の面から放流効果調査も進めて参りました。

この公的栽培機関と連携した5年間の放流事業の実績から「一定の海域・資源量を基礎にした放流量の指針」を得るとともに、栽培養殖に関わる公共機関との信頼関係を醸成することが出来ました。このような背景を基礎に2018年度から、全国各地の公的栽培機関と連携・協力体制を構築しながら、一定の海域・資源等も踏まえた『釣り人の皆様に喜んで頂ける、釣りにも利活用出来る魚種』の放流を各地で進めて参りたいと考えました。

そのため、まずはこれまでの実績と信頼関係を基に、2017年度内に栽培事業に関する中央団体である「公益社団法人全国豊かな海づくり推進協会」へLOVE BLUE事業への協力を依頼させて頂き、そして2018年1月30日に開催された、第3回海域栽培漁業推進協議会全国連絡会議・平成29年度栽培漁業推進全国連絡会議以降、毎年度会議の席でご説明の機会を頂き、LOVE BLUE放流事業へのご協力のお願いをさせて頂いています。

第8回海域栽培漁業推進協議会全国連絡会議 LOVE BLUE 専門機関と連携した放流事業へご協力を依頼



放流

宮城県

(ヒラメ4万1000尾・マコガレイ6000尾)

(公財) 宮城県水産振興協会



秋田県

(ヒラメ2万尾・マダイ2万尾・クロソイ1万6500尾)

(公財) 秋田県栽培漁業協会



神奈川県

(マダイ9万8000尾・カサゴ5000尾)

(公財) 神奈川県栽培漁業協会



新潟県

(ヒラメ8万尾)

(公社) 新潟県水産振興協会



滋賀県

(ホンモロコ400万尾・ゲンゴロウブナ250万尾)

(公財) 滋賀県水産振興協会



広島県

(クロメバル10万尾)

(一社) 広島県栽培漁業協会



放流

山口県

(マダイ 6万 8000 尾)

(公社) 山口県栽培漁業公社



熊本県

(イサキ 7万 6800 尾)

(公財) くまもと里海づくり協会



宮崎県

(カサゴ 8万 3333 尾)

(一財) 宮崎県栽培漁業協会



長崎県

(クエ 8000 尾・カサゴ 1万 7500 尾)

(株) 長崎県漁業公社



2022年度 10 県 9 魚種 712 万 913 尾放流

(累計 1 府 15 県 11 魚種 2359 万 6846 尾放流)

放流

広島県 横島漁業協同組合 代表理事組合長 渡邊冬彦 さん



私どもの福山地区水産振興対策協議会でも放流をしています。プラスで放流して頂けるのは大変有難いです。なので、協力の連絡を頂いた時には、二つ返事です承しました。私どもはだけでは、そこまでの量を放流する事が出来ませんので、今回クロメバル5万尾を追加して放流出来た事は組合員も喜んでおります。

今回この事業の趣旨を聞いて、深く感銘しました。漁業者と釣り人はトラブルとかもありますが、やっぱり海を大事にする思いは一緒だと思いました。また、自主財源で事業を実施していることは素晴らしいですね。なかなか難しい事だと思いますけど、引続き頑張ってください。本当に感謝しておりますので、引き続き放流事業の方をお願いします。

広島県 深江漁業協同組合 代表理事組合長 樋口元武 さん



今回のクロメバルの放流は大変ありがたいです。漁業者も喜んでますよ。今回栽培協会から、この専門機関と連携した放流事業の協力の話が来た時は嬉しく、断る理由が無いと思いました。漁業者として、資源は大事で、温暖化の影響とかでいろいろと海の中の環境が変化している中で、なんとか守っていききたいと思っています。なので、5万尾の放流は嬉しい限りです。

放流する場所も、クロメバルの稚魚が成長しやすい、浅瀬の藻があるところを選んで放流しました。これは、やっぱり大きく育てて欲しいという思いからです。漁業者はそういった思いも持っています。なので、これからも放流事業の継続をお願いします。何かあればいつでも協力させていただきます。ありがとうございました。

釣り場拡大 (ワカサギ)

水産庁ご後援の下、国立研究開発法人水産研究・教育機構 水産技術研究所 環境・応用部門 沿岸生態システム部 内水面グループや、全国内水面漁業協同組合連合会から、LOVE BLUE 事業へご理解とご協力を頂き、2017年度より事業開始致しました。6年度目の2022年度からは全国24団体へと展開致しました。

この事業は、ワカサギ卵供給にかかる初期設備(ふ化施設等)一式の物納支援という形で、各都道府県の水産試験場等の研究機関等と連携しながら推進しています。

水産庁後援名義使用許諾文書

水産庁指令3水管第3087号

東京都中央区八丁堀2-22-8
日本フィッシング会館5階
一般社団法人日本釣用品工業会
会長 島野 容三

令和4年2月22日付け令和3・日釣工第39号で申請のあった「LOVE BLUE 内水面釣り場拡大事業(ワカサギ)」の実施に当たって、水産庁の後援の名義を使用することは、これを承認する。

令和4年3月28日

水産庁長官 神谷 崇

2022年度1道2県3団体支援 (累計1道15県24団体支援)

2022年度

022：埼玉県 埼玉県内
023：長野県 岩倉ダム
024：北海道 阿寒湖

2017年度

001：群馬県 鳴沢湖
002：長野県 美鈴湖 / 小花見池

2018年度

003：埼玉県 名栗湖
004：千葉県 高滝湖
005：兵庫県 音水湖
006：茨城県 霞ヶ浦
007：群馬県 梅田湖
008：島根県 尾原ダム湖
009：山梨県 河口湖

2019年度

010：佐賀県 北山湖
011：山形県 横川ダム
012：山梨県 山中湖
013：北海道 しのつ湖

2020年度

014：兵庫県 東条湖
015：北海道 網走湖
016：栃木県 川俣湖
017：新潟県 奥只見湖
018：宮城県 花山ダム

2021年度

019：奈良県 津風呂湖
020：大分県 大山ダム
021：北海道 濤沸湖

釣り場拡大（ワカサギ）

2022 年度採択団体（3 団体）

- 埼玉県「埼玉県内」埼玉県漁業協同組合連合会 6 連式孵化器 / 稚魚飼育箱
- 長野県「岩倉ダム」下伊那漁業協同組合 可搬型孵化器 / 自然産卵水槽 / 親魚捕獲漁網
- 北海道「阿寒湖」阿寒湖漁業協同組合 20 連可搬型孵化器 / 新型ブラシ

これまでの主な支援設備



■ 設置型孵化器

ワカサギ卵を高い孵化率で孵化・放流する



■ 新型ブラシ

新型吊り下げ式人工産卵床



■ 可搬型孵化器

移動可能なソーラ発電式孵化器



■ 親魚捕獲用定置網

ワカサギ親魚捕獲用



■ 自然産卵水槽

質の高い受精卵が確保できる水槽



■ サランロック

遡上河川の川床に設置する人工産卵床



■ 看板

(LOVE BLUE 事業で支援したことが分かるように表示いただいております。)

釣り場拡大 (ワカサギ)

山梨県河口湖漁業協同組合 渡辺和成さん



「河口湖は、データで見るとワカサギの不漁期間が過去30年もあったんです。もちろん、その間も変わらず卵の放流は続けてました。やっと増え始めたのが8年前で、これには山梨県水産技術センターの協力がとても大きな役割を果たしています。

生まれたばかりのワカサギ仔魚は初期減耗と言って、放流後、数日以内に餌となるプランクトンを捕食出来ないと全て死滅してしまう。それを防ぐ為にどのタイミングで放流すべきか、同センターがプランクトン調査を定期的に行った結果、放流時期を分散させて餌であるプランクトンを捕食出来るタイミングを増やして死滅リスクを抑える事で解決出来ました。幸い、河口湖漁協では過去の放流日のデータを長年蓄積してきた。ダメな時のデータも揃っていたおかげで、効果的な放流方法がわかったんです。ワカサギ卵が入荷したからといってただ放流するだけでは死滅してしまう可能性が高く、それを抑えるのが放流のタイミングを分ける分散放流だったんです。

また、これまで放流卵を提供されてきた地域からの移植放流も変わらず継続することで死滅するリスクを大幅に減らしています。自湖産だけに頼らず、放流したワカサギ仔魚を無駄にしない為です。加えて、効率良く自湖産親魚を捕る技術として、豊漁時代を知るベテラン漁業者からの情報提供もとても重要でした。これが安定して親魚を捕れるようになった大きな要因なんです。それを支えてくれた釣り界からの LOVE BLUE による今回の親魚捕獲定置網の支援には大変感謝していますよ」。



LOVE BLUE 広報

読売新聞・朝日新聞 全国版一面 小型広告掲載

2022年度も LOVE BLUE 事業が多くの方に認知頂けるよう、読売新聞・朝日新聞の全国版一般紙の朝刊に小型広告を「環境の日」・「海の日」・「釣りフェスティバル2023初日」・「フィッシングショー OSAKA2023 初日」に掲載致しました。掲載したことで、幅広く多くの方に認知頂けるようになり、「小型広告を見た」とお声を頂く場面もございました。来年度も多くの方にご理解頂けるように、小型広告の掲載を実施して参ります。



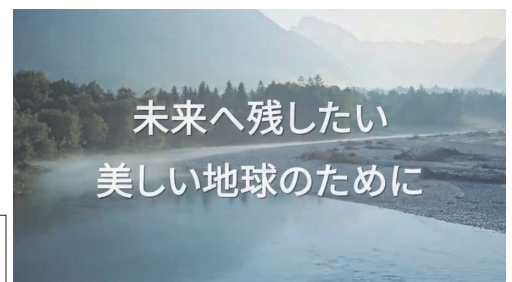
読売新聞



朝日新聞

YouTube CM 配信

2022年度も LOVE BLUE 事業が多くの方に認知頂けるよう、YouTube での CM 配信を行いました。CMは「釣り人向け」・「一般社会向け」・「釣り人・一般社会向け」の30秒で3バージョンを配信致しました。また、このCMはパシフィコ横浜で開催致しました、釣りフェスティバル2023の会場でも流し、多くの方へ LOVE BLUE 事業を届ける事が出来ました。



釣り人向け Ver.



一般社会向け Ver.

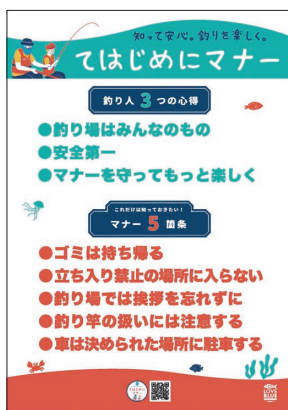


釣り人・一般社会向け Ver.

釣りマナー広報

「てはじめにマナー」をキャッチフレーズに釣りのエントリー層へ広く釣りマナーを啓発

コロナ禍による屋外余暇活動の活性化を背景に、釣りエントリー層の水辺へ訪れる機会が増えたことなどから、釣り人のマナーへの関心が高まって来ています。このような背景からも、LOVE BLUE 事業では、釣りエントリー層を中心に、あらためて、釣りを安全かつ快適に楽しむ上で必要なマナーについて、「てはじめにマナー」とのキャッチフレーズで「釣り人3つの心得」や「マナー5箇条」を掲げ、主に以下の周知広報を強化・推進しました。



啓蒙ポスター A3



ステッカー 100mm



釣具店並びに管理釣り場にご掲示頂いております。

公式 HP からポスター・ステッカー・スマホ待受画面の DL ができます。



メディアが取り上げ易い以下のニュースレターで、社会的背景を踏まえた発信により釣りマナーを啓発しました。

【 コロナ禍で釣り人増加×守るべきマナー 】



【 2022 年度 釣りに行って良かった都道府県ランキング 】



【 読売中高生新聞 釣りマナー7箇条 】

釣りマナー向上大使を任命し、釣りマナーの普及啓発を、地上波・WEB 等へ広く拡散しました。

【 釣りマナー啓発への貢献により釣りマナー向上大使がクールアングラズアワードを受賞 】

【 釣りフェスティバル 2023 館内要所での大型バナーの掲示 】



釣りマナー広報

釣りマナーを「BuzzFeed Japan で楽しく」、 「Huffpost Japan で誠実に」伝える。

釣りエントリー層を中心とした、釣り人のマナー向上を図ると共に、広く社会全体にも釣りマナー啓発活動の取組みを周知するために、世界最大級のネットメディアの日本版である「BuzzFeed Japan」・「Huffpost Japan」を活用しました。

「BuzzFeed Japan」では、マナーを“楽しく”伝えることをコンセプトに、以下の通り、マナー以外の切り口での SNS 発信により、広く関心を集め、コンテンツ内ではマナーを伝えることへ落とし込む方法で、多くの方々に釣りマナーを“楽しく”伝えることに努めました。

【 《激ムズ》釣り好きにしかわからない用語クイズ 】



【 絶対にダメ。釣りをはじめてはいけない 10 の理由 】



【 ちょっと明日釣り行こってなる…！
人気タレントが釣った魚でつくった
料理が最高においしそう 】



「Huffpost Japan」では、マナーを“誠実に”伝えることをコンセプトに、以下の通り、釣りに関わるマナーの課題とそれに向けた取組みを、真摯な姿勢で情報発信することで、社会からの共感を得つつ、私たちの取組への理解の輪を広げるようにしました。

【 コロナ禍で釣りブームが到来。その裏で“ある問題”が起きていた 】



【 親子で釣ったサバの唐揚げは、サクサクでした！
コロナ禍で人気急上昇の釣りだけど、忘れてはいけないことは？ 】



※ BuzzFeed Japan: ニュース、エンタメ、料理動画、DIY ハック、その他話題のトピックなど、友人とシェアしたくなる発信を行うネットニュースメディア。

※ Huffpost Japan: 2005 年にアメリカで創設された世界最大級のネットニュースメディア。

国・自治体等とのつながり

※役職は当時のもの

環境大臣から感謝状

2015年6月10日、2015年度から新たに本事業の一環として、独立行政法人環境再生保全機構と連携し、同機構による「地球環境基金 企業協働プロジェクト」の第1号「LOVE BLUE 助成」をスタートさせました。上記の事業を踏まえ、「環境の日」である6月5日付にて、環境大臣より感謝状をだされ、LOVE BLUE 委員会小島忠雄委員長が代表して、環境省を訪問し環境省総合環境政策局 小林正明 局長より授与されました。



右から、環境省総合環境政策局 小林正明 局長、小島忠雄 顧問

南房総市長表敬訪問

2016年4月18日に南房総市長へ表敬訪問を行いました。

市長から、南房総市を水中クリーンアップ活動の場として選んで頂いてうれしく思っています。水の中は自分たちでは、なかなか清掃できないので、プロのダイバーの方々に水中を清掃頂けるのは、とてもありがたいです。南房総市での活動を引き続き宜しくお願いします。



左から、南房総市 石井裕 市長、小島忠雄 顧問

鳥羽市長表敬訪問

2016年5月19日 G7 伊勢志摩サミットまであと7日となった、鳥羽市長へ表敬訪問を行いました。

市長から、鳥羽は海女と真珠のふるさどです。私たちが大切にしている海をきれいにして頂いていることに心から感謝申し上げます。多くの企業が志を同じくして参加されていることが本当に素晴らしい。釣りに対するイメージが大きく変わってくると思います。今後とも、宜しくお願いします。



左から、鳥羽市 木田久主一 市長、島野容三 会長

国・自治体等とのつながり

※役職は当時のもの

環境省表敬訪問

2017年1月20日、LOVE BLUE事業が取り組む社会貢献事業について、これまで積み重ねてきた実績等をご説明するため、環境省へ表敬訪問を行いました。

環境省 小林事務次官から「今また温暖化や水の危機が起こるのではと言われる中、水への関心を高める取組みという観点で、皆様の取組まれている社会貢献事業、大変素晴らしいと思います。今後ともぜひ頑張ってください。」とお話がありました。



中央、小林正明 環境事務次官、左から、松下和夫 京都大学名誉教授、大村一仁 副会長、島野容三 会長、小島忠雄 顧問

高崎市市長表敬訪問

2018年3月28日、群馬県高崎市鳴沢湖公営釣り場に、社会貢献事業の水産庁後援内水面釣り場拡大事業（ワカサギ）事業での、ワカサギ卵孵化施設一式設置のご報告及び御礼のご挨拶で表敬訪問致しました。富岡賢治 市長から、「ワカサギ釣りは地元高崎市にとっても大きな収入減の一つとなっております。地域経済の発展なども含めて、本当にありがたいです。」と感謝のお言葉をいただきました。



左から、富岡賢治 市長、大村一仁 副会長、小島忠雄 顧問

茨城県知事表敬訪問

2018年9月28日、第17回世界湖沼会議の開催を前にLOVE BLUE事業へのご理解とご協力の御礼、並びに今後一層、茨城県内での事業の推進をお伝えする為、表敬訪問致しました。大井川和彦 知事からは、「社会貢献事業として取組まれている、LOVE BLUE事業、水中クリーンアップ活動、本当にありがとうございます。素晴らしい事業です。引き続き宜しくお願いします。」と御礼のお言葉をいただきました。



左から、柿沼清英 理事、加藤誠司 副会長、島野容三 会長、大井川和彦 茨城県知事、大村一仁 副会長、小島忠雄 顧問

国・自治体等とのつながり

※役職は当時のもの

環境大臣表敬訪問

2019年6月20日、事業実施へご協力をいただいていることへの御礼、これまでの実績等をご報告する為、表敬訪問致しました。原田義昭 環境大臣から、2013年から7年目となる、全国各地の水辺の環境保全に取り組む当事業の実績に対して、「国内全体へ、細やかに取組まれている、素晴らしい事業ですね。」と評価をいただきました。また、LOVE BLUE 助成の活動について、改めて感謝のお言葉をいただきました。

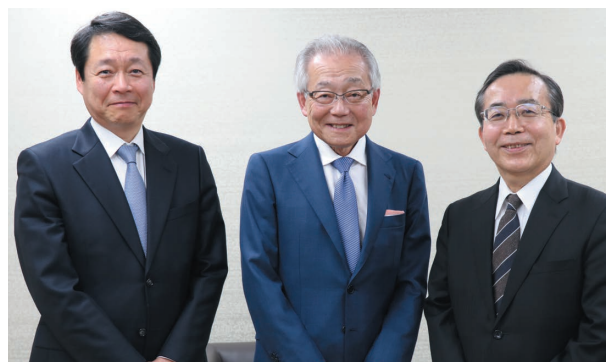


特命担当大臣 環境大臣

左から、大村一仁 副会長、松下和夫 理事、原田義昭 環境大臣、島野容三 会長、小島忠雄 顧問、小松智昭 専務理事、柿沼清英 理事

環境系トップリーダーとの対談

2019年12月12日、水辺の環境保全活動を社会貢献事業として釣り界を挙げて取り組む、つり環境ビジョンコンセプトに基づくLOVE BLUE 事業の周知広報の一環として、独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金 小辻智之 理事長と京都大学 松下和夫 名誉教授と一般社団法人日本釣用品工業会 島野容三 会長による「LOVE BLUE 世界に誇れる水辺環境の保全」とのテーマでの対話が行われました。



左から、独立行政法人環境再生保全機構 小辻智之 理事長、島野容三 会長、松下和夫 京都大学名誉教授

鹿児島県知事表敬訪問

2021年3月24日、社会貢献事業として取り組むLOVE BLUE 事業の活用の御礼並びに、さらなる関係構築向け、表敬訪問致しました。塩田康一 知事からは、鹿児島県内でのLOVE BLUE 事業実施への御礼とともに、2020年度の放流現地に訪れたこと、自主財源での実施や漁港や港湾等での清掃活動へも関心が示され、釣りについても「今年も行ったが、釣果が振るわず、漁師にはなれませんね。」など、和やかな懇談となりました。



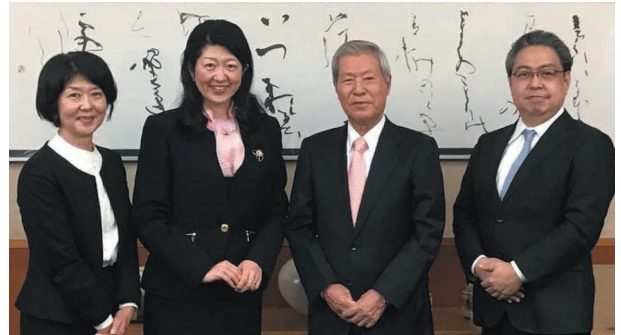
中央 塩田康一 鹿児島県知事、中央右 前田かおる (公財) かごしま豊かな海づくり協会 事務局長、中央左 (一社) 日本釣用品工業会 小島忠雄 顧問、最右 同会 小松智昭 専務理事、最左 同会 柿沼清英 理事

国・自治体等とのつながり

※役職は当時のもの

鹿児島県副知事表敬訪問

2021年3月24日、社会貢献事業として取組むLOVE BLUE事業の活用の御礼並びに、さらなる関係構築向け、表敬訪問致しました。中村副知事からは「本日のようにご来訪頂くことで、県としても県内からの視点ではなく、外から見た鹿児島の価値を再認識する機会となり、その意味でもご来訪頂き心から御礼申し上げます。是非ともまた鹿児島県を宜しくお願い致します。」との感謝のお言葉をいただきました。



中央左 中村かおり 鹿児島県副知事、最左 前田かおる (公財)かごしま豊かな海づくり協会 事務局長、中央右 (一社)日本釣用品工業会 小島忠雄 顧問、最右 同会 柿沼清英 理事

(公財) かごしま豊かな海づくり協会訪問

2021年3月24日、(公財)かごしま豊かな海づくり協会の理事会が開催され、鹿児島県でLOVE BLUE事業をご活用いただいたことへの御礼で訪問致しました。鹿児島県漁業協同組合連合会 野村義也 会長からは、「豊かな海が大事です。長く漁師をやっているのでも、資源が少ない実感があり、鹿児島県でのマダイ放流は本当にありがたい。心から感謝してます。」と御礼をいただきました。



右から、(公財)かごしま豊かな海づくり協会 五田嘉博 理事長、鹿児島県漁業協同組合連合会 野村義也 会長、(一社)日本釣用品工業会 小島忠雄 顧問、同会 柿沼清英 理事

広尾町長表敬訪問

2021年12月14日、広尾町が管理をする重要港湾十勝港での水中クリーンアップ活動実施へ要望頂いたことや感謝状授与への御礼で表敬訪問致しました。村瀬優 町長から、「海を持つ我々の生活の糧というのは、その海が財産ですから、海で食べていく人たちは海を大事にしますので、この取組は素晴らしい取組みと思いき、ありがたいと思っています。」とお言葉をいただきました。



左から、村瀬優 広尾町長、(一社)日本釣用品工業会 小島忠雄 顧問

水中清掃への想い

山形県漁業協同組合 専務理事 西村盛さん

2022年6月3日、LOVE BLUE 事業で水中清掃をやって頂いていること、業界団体が、小さい港も清掃していただいているということが助かります。こういう事業を行ってもらっているということを漁業者に紹介することで意識も確実に変わってくると思います。私たちも日頃から清掃活動が大事と思っているので、今後も、水中清掃を続けて行ってもらいたいと思っています。



クリーンアップひぬまネットワーク 谷萩八重子さん

2019年7月13日、私たちでは出来なかった水中の清掃を LOVE BLUE 事業が取り組んでいただけのおかげで、涸沼はラムサール登録湿地となりました。本当に感謝しております。陸上の清掃は毎年、多くの方にご参加いただき実施をしておりますが、水中清掃まではどうしても出来ませんでした。その中で、今回の事業のお話を聞いた時は大変嬉しく思いまいました。ラムサール登録湿地になる前から、そして、なったあとも実施していただき、本当にありがとうございます。これからも変わらず宜しくお願いします。



霞ヶ浦問題協議会 会長 中川清さん

2019年3月3日、国内第2位の面積を持つ湖・霞ヶ浦。その流域24自治体が連携して取組む陸上清掃イベントと連携し、水中クリーンアップ活動を実施致しました。霞ヶ浦問題協議会 会長でもある中川清 土浦市長からは「霞ヶ浦の水をキレイにする為に、水中クリーンアップ活動を実施していただき、ありがとうございます！」とお言葉をいただきました。



世界環境デーと LOVE BLUE 事業

6月5日は「世界環境デー」です。これは、1972年6月5日からストックホルムで開催された「国連人間環境会議」を記念して、日本の提案を受けて定められたものです。日本では「環境基本法」で「環境の日」を定めています。国民の間に広く環境の保全についての関心と理解を深めるとともに、積極的に環境の保全に関する活動を行う意欲を高めるのがその趣旨です。それに加えて平成3年度からは、6月の1か月間を「環境月間」とし、エコライフ・フェアをはじめ、全国で環境保全に向けた様々な行事が行われています。

LOVE BLUE 事業では、環境省が主催する「エコライフ・フェア」に2014年以来、コロナ禍で中断されるまで継続して出展し、LOVE BLUE 事業の紹介を行ってきました。

事業開始より10年の実績を積み重ねる LOVE BLUE 事業では、これまで全国の水辺の水中のクリーンアップなど、社会貢献事業として数多くの活動をしてきました。さらに地球環境基金を通じて LOVE BLUE 助成として、清掃活動など水辺の環境保全を行っている多くの団体に助成金を出して活動支援をしています。これからもより一層、地元自治体や環境活動を行っている地域の団体とパートナーを組み、地元の方々に受け入れられ、歓迎されるような取り組みを進めていくことが望ましいと思われまます。LOVE BLUE 事業の継続的な活動によって、よりクリーンで、より健康的で、より持続可能な未来につながることを期待しています。



京都大学名誉教授
松下和夫

公式FACEBOOK・公式ホームページのご案内

公式FACEBOOKでは最新の情報(水中クリーンアップ活動等)を配信しています。

公式ホームページでは自治体や地元からの生の声や、詳細な活動報告を掲載しています。

ぜひご覧ください。



FACEBOOK LOVEBLUE 検索

LOVE BLUE
FACEBOOK



LOVEBLUE 検索

LOVE BLUE HP
<https://www.loveblue.jp/>

